

4 利用者ニーズの把握

4-1 町民アンケート結果

調査方法	調査対象者：住民基本台帳から無作為抽出 15歳以上の町民 2,000人対象 調査方法：郵送配布・郵送回収 調査期間：令和4年10月下～11月
回収状況	配布数：2,000票、回収数：1,001票（回収率：50.0%） ※安食小学校区 224票、旧北辺田小学校区 59票、旧酒直小学校区 92票、布鎌小学校区 110票、安食台小学校区 274票、竜角寺台小学校区 214票、その他 19票、地区名無回答 9票
調査項目	<p>○回答者の属性及び生活環境 （住まいの小学校区、性別、年齢、職業、運転免許証の有無、1人で外出できる程度、世帯にある自動車台数、自由に使える自動車の有無、福祉タクシー・介護タクシーの利用有無）</p> <p>○回答者の日常的な移動 （買い物の頻度、買い物の場所と名称、買い物の交通手段、通院の頻度、最もよく行く病院の場所、通院の交通手段、通勤・通学の頻度、通勤・通学先、通勤・通学の交通手段、交通手段がなくて困る程度、困る場所、困る時の現在の移動方法、自家用車の運転について、運転を続ける年齢）</p> <p>○町内のバスの利用について （自宅近くのバス停位置の認知、バスの乗り方の認知、バスの運賃の認知、バスの利用有無、バスの利用頻度、バスを利用しない理由、バスが便利になった場合の利用可能性、利用目的、バスに求める便利さ、印旛日本医大駅方面へのバス等の利用可能性、利用目的）</p> <p>○公共交通の満足度 （鉄道・路線バス・循環バスの満足度（運行本数、運行時間帯、運賃、所要時間、快適性、待合環境、行き先（ルート）、定時性（正確さ）、乗り継ぎ））</p> <p>○今後の公共交通の利用意向 （デマンド交通システムの利用意向、デマンド交通を利用して行きたい場所、目的、頻度、時間帯、払える運賃、望ましい運行地区、公共交通利用促進への取り組み、環境に配慮した自家用車の利用について）</p> <p>○公共交通のこれからについて （公共交通のあり方、公共交通の維持・充実理由、公共交通の維持・充実方法）</p> <p>○自由意見</p>



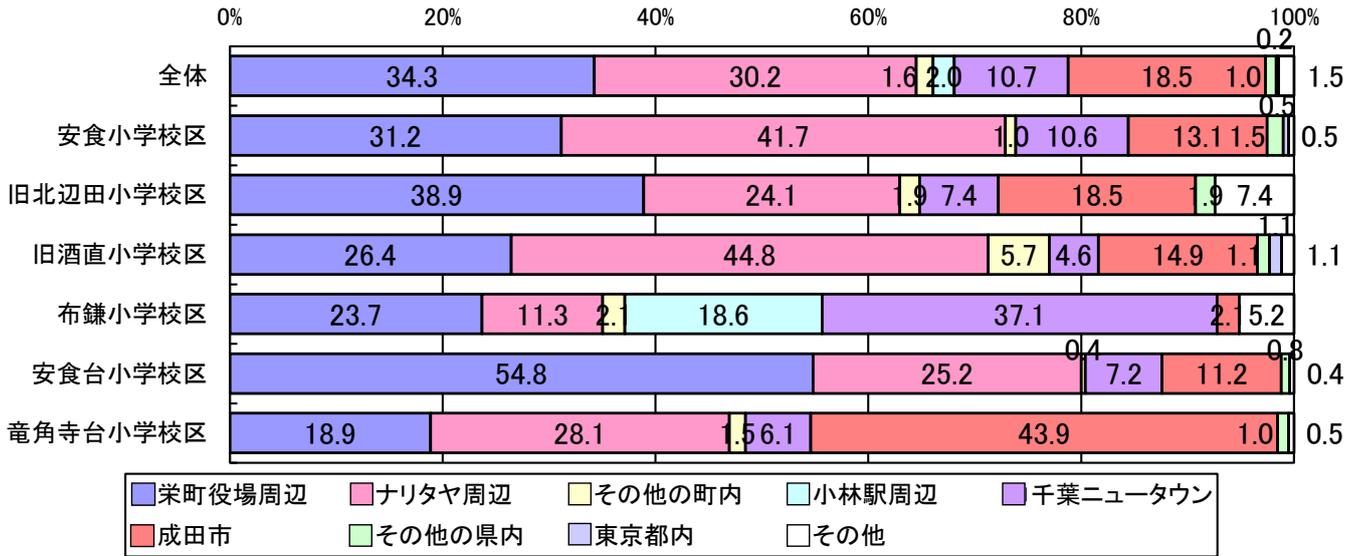
■住まいの小学校区

地区	票数
安食小学校区	224
旧北辺田小学校区	59
旧酒直小滑降区	92
布鎌小学校区	110
安食台小学校区	274
竜角寺台小学校区	214
その他	19
無回答	9
合計	1,001

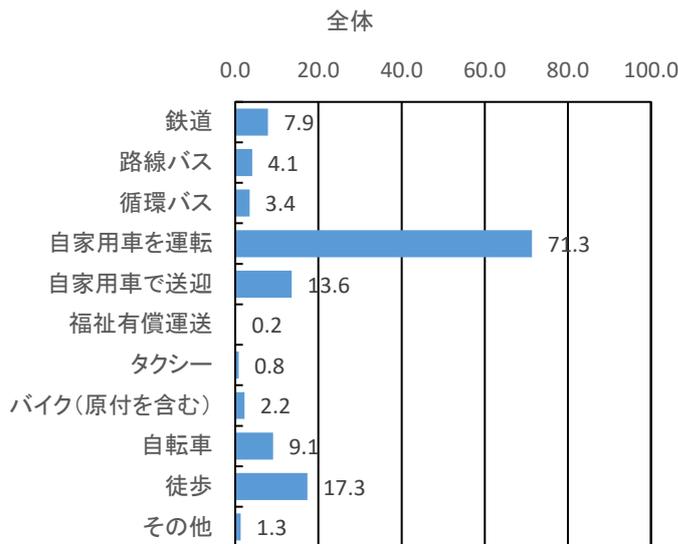
移動特性（買い物）

- 買い物場所について、「栄町役場周辺」が最も多く 34.3%を占めている。安食台小学校区は「栄町役場周辺」の割合が他の地区と比較して高く 54.8%となっている。
- 買物の交通手段について、「自家用車を運転」の割合が高く 71.3%となっている。特に旧北辺田小学校区は高く 83.1%となっている。安食小学校区及び安食台小学校区は他の地区と比べ「徒歩」の割合が高くなっている。

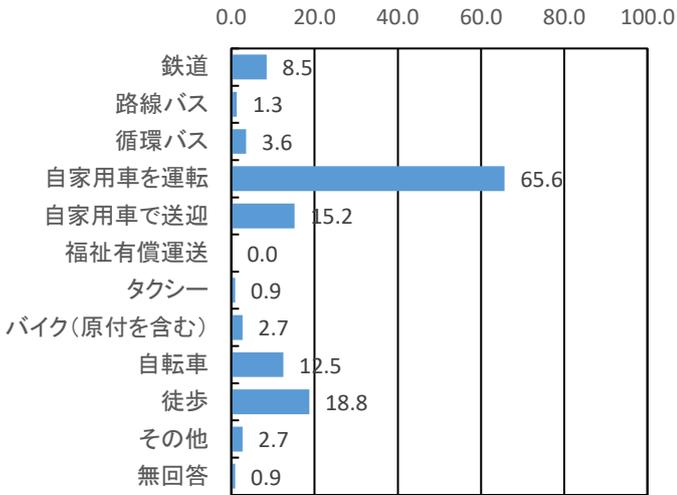
■ 買い物場所



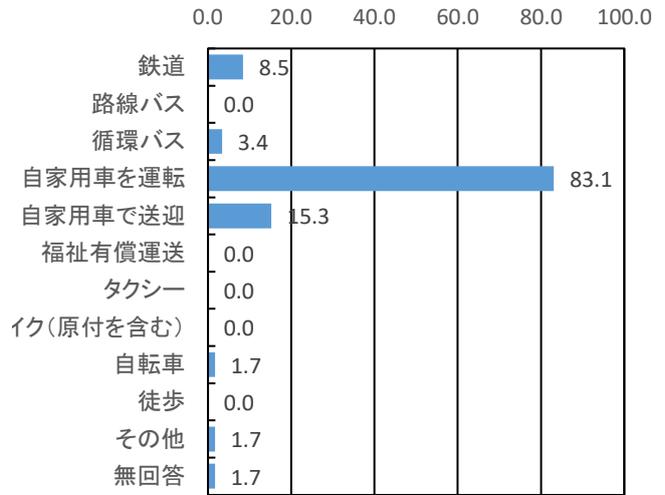
■ 買物の交通手段



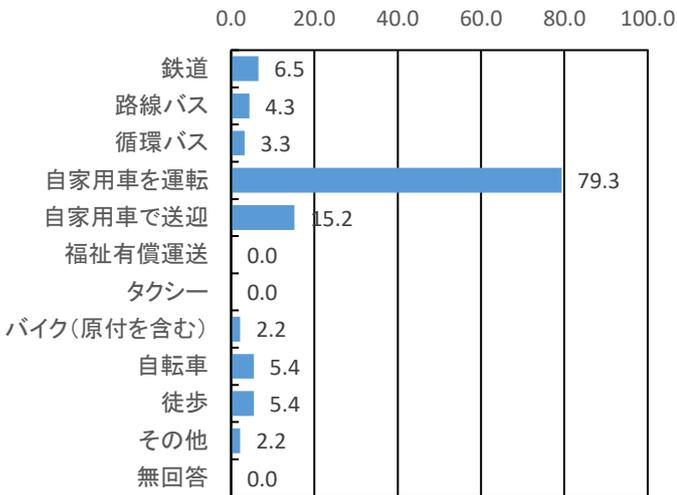
安食小学校区



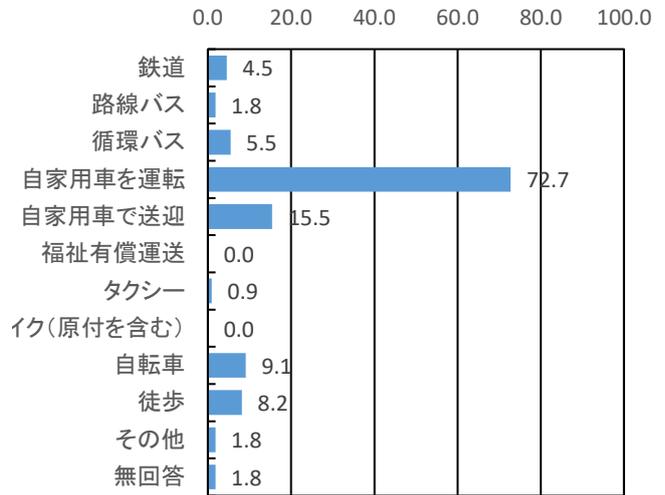
旧北辺田小学校区



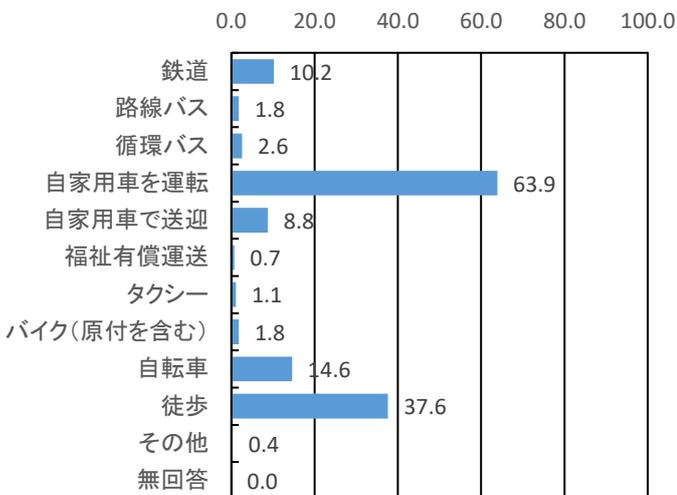
旧酒直小学校区



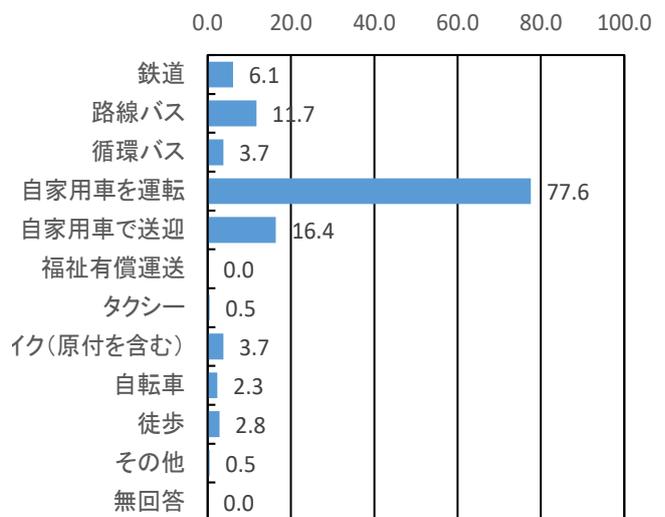
布鎌小学校区



安食台小学校区



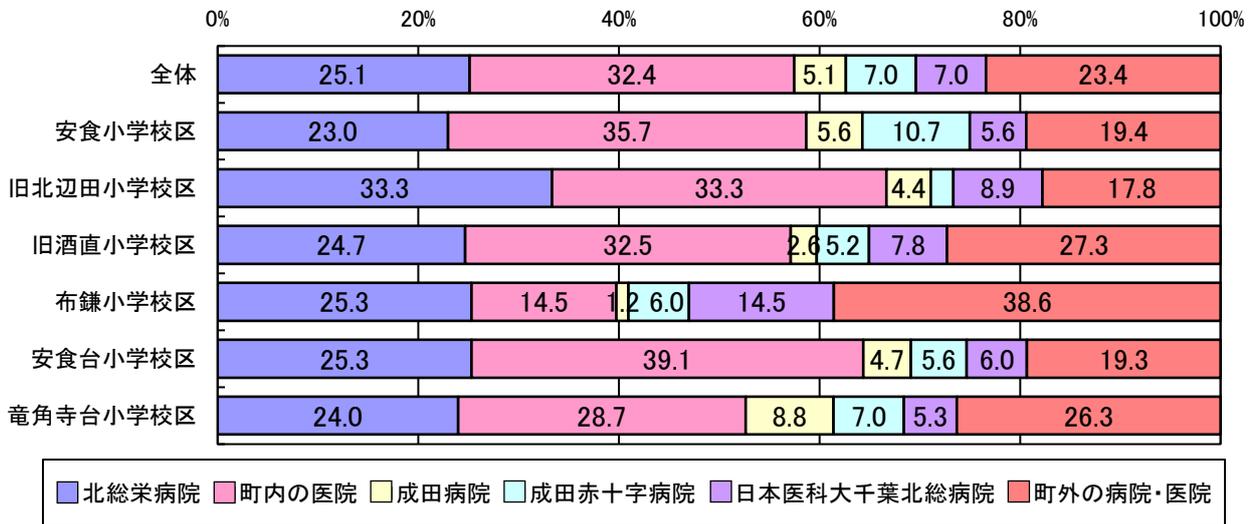
竜角寺台小学校区



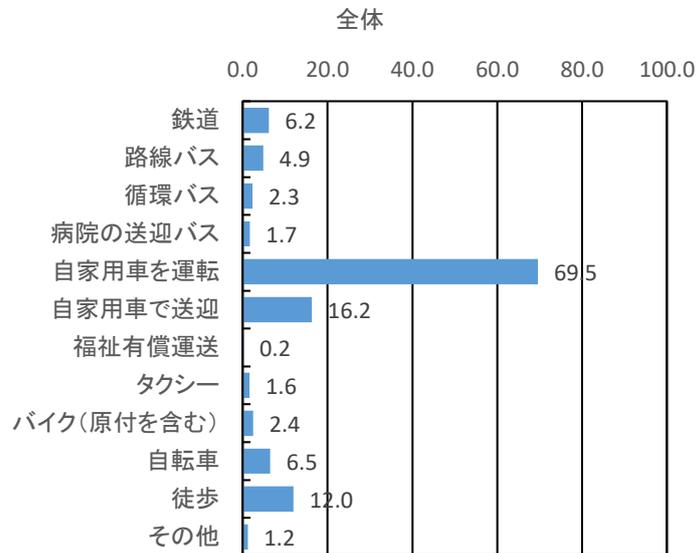
移動特性（通院）

- 最もよく行く病院・医院について、「町内の医院」であり 32.4%を占めている。
- 病院への交通手段は、「自家用車を運転」が最も多く 69.5%となっている。

■最もよく行く病院・医院



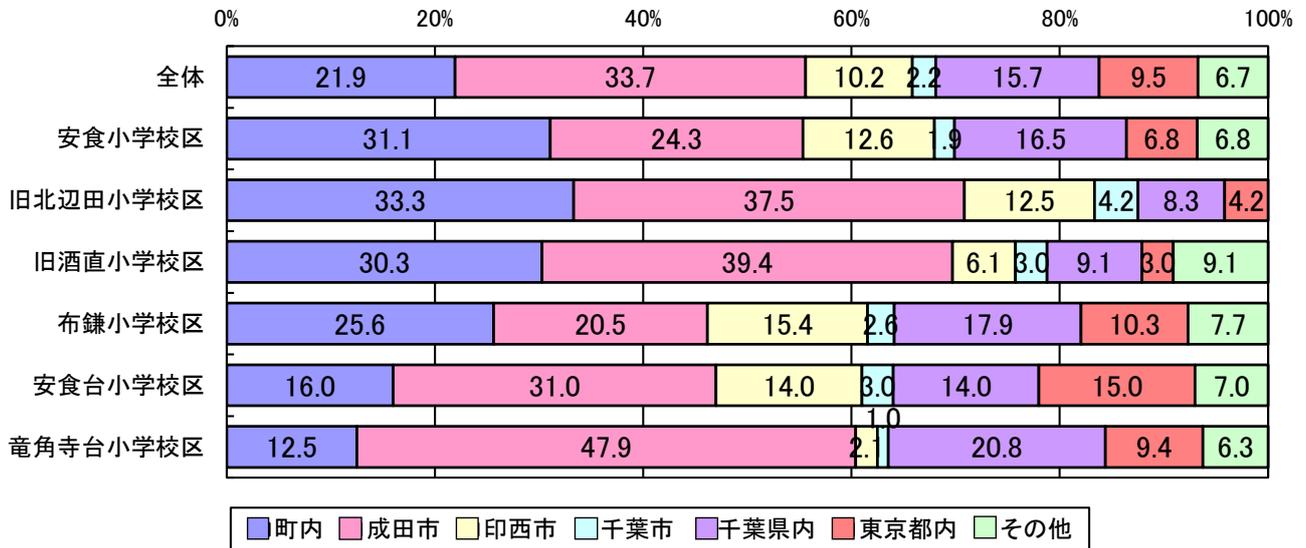
■病院への交通手段



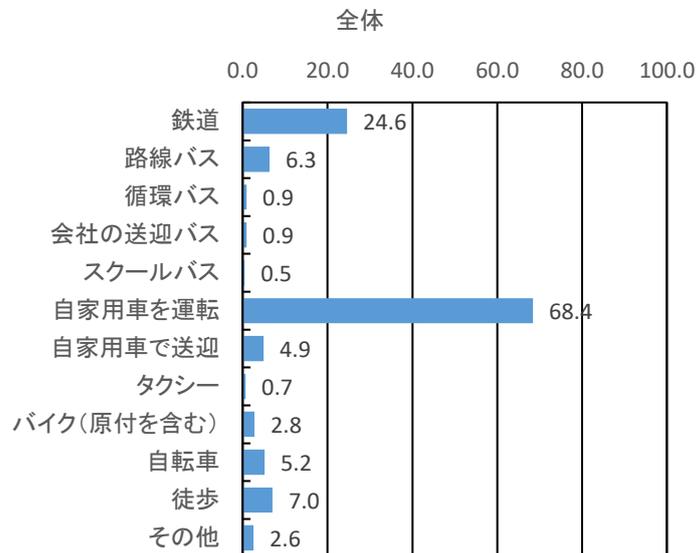
移動特性（通勤・通学）

- ・通勤・通学先で多いのは「成田市」で 33.7%を占めている。特に竜角寺台小学校区は「成田市」の割合が他の地区と比べ高くなっている。
- ・通勤・通学の交通手段について、「自家用車を運転」が最も多く 68.4%となっている。

■通勤・通学先



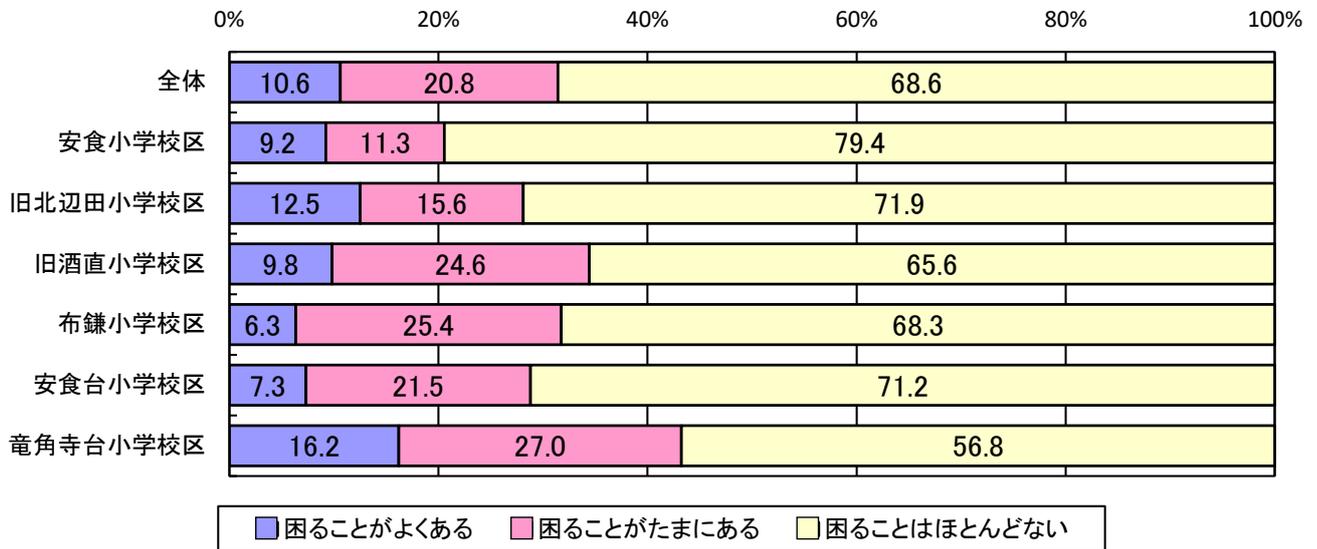
■通勤通学時の交通手段



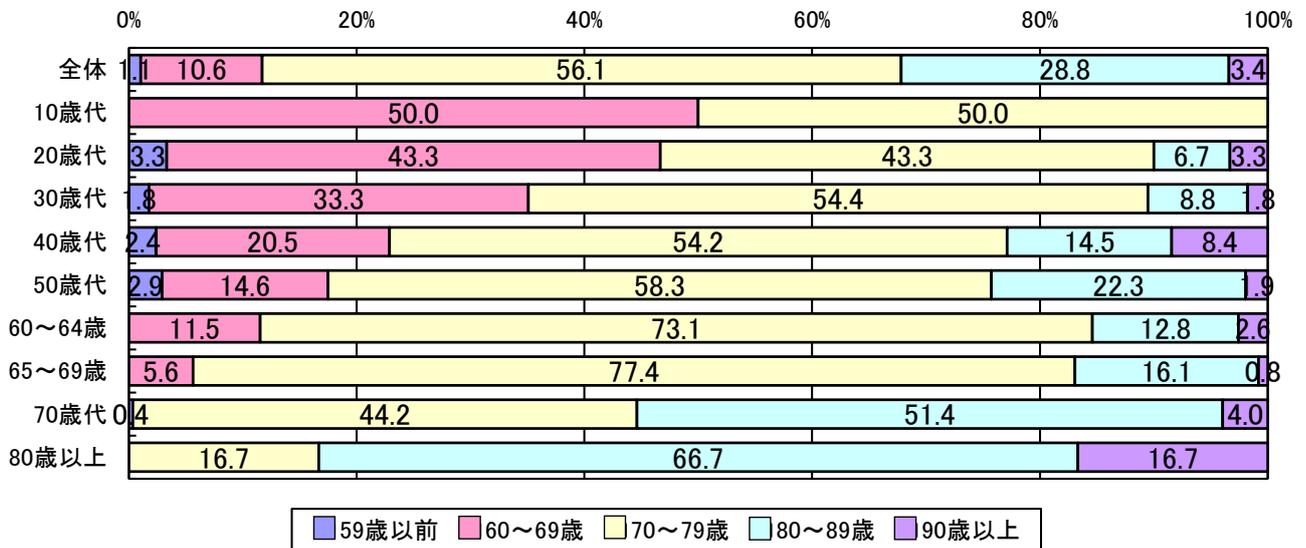
移動や交通手段に対する意識

- ・栄町では「困ることはほとんどない」が68.6%を占めている。
- ・運転を続ける年齢について、高齢でも運転を続けるという回答が高く、70歳以上でも続ける割合は88.3%である。

■交通手段がなくて困ること



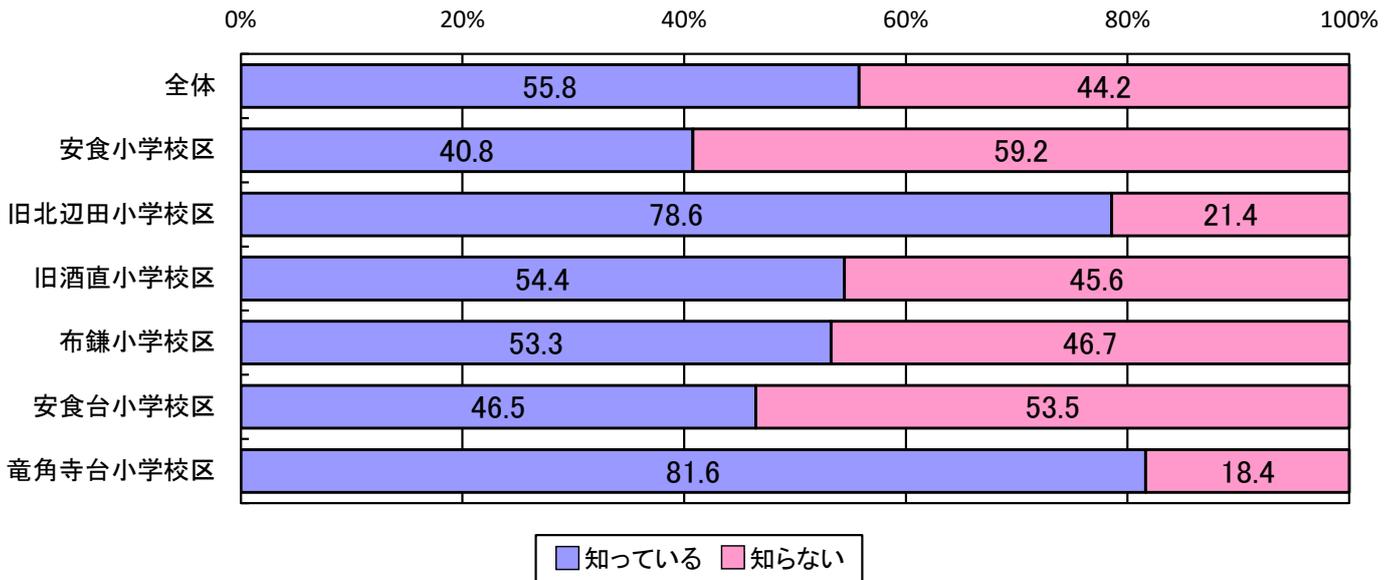
■運転を続ける年齢



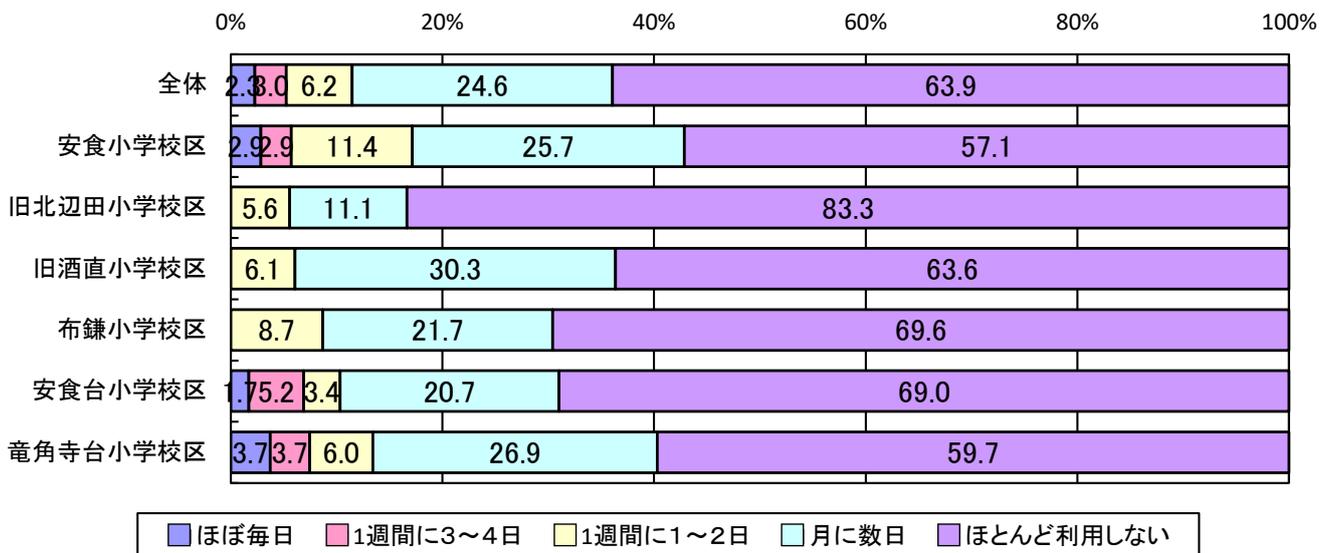
町内バスの認知及び利用状況

- バスの乗り方や運賃に対する認知状況が 55.8%と低く、また「ほとんど利用しない」が 63.9%で利用頻度も低い。
- バスを利用しない方では、バスが便利になれば、「健康状態に変化があれば利用するかもしれない」が 45.0%を占めている。
- 利用に際しては、運行本数の増発や行き先の多様化、運行時間の拡大など求めており、現行の運行サービスへの不満が伺える。

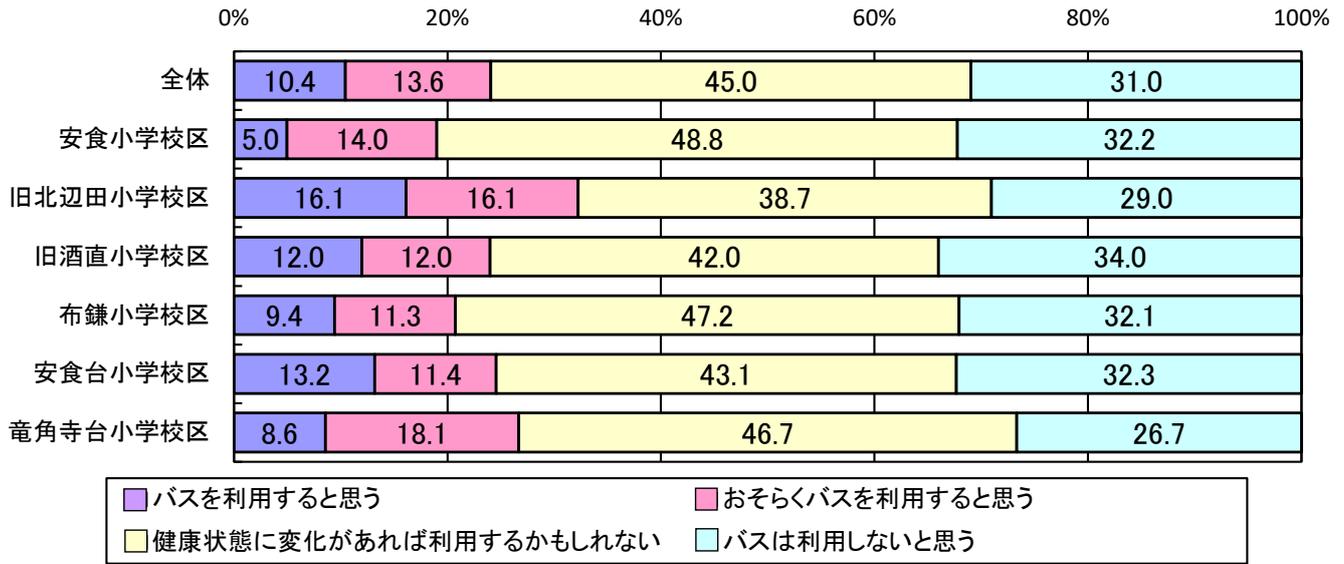
■バスの乗り方の認知



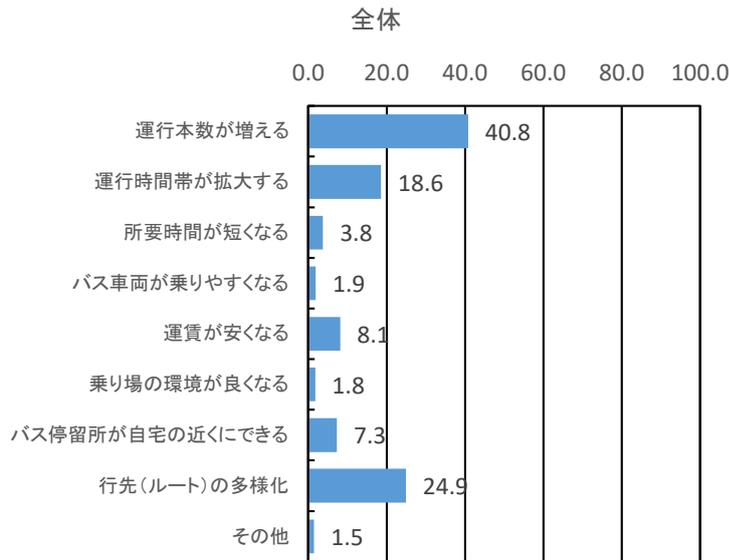
■バスの利用頻度



■バスが便利になった場合の利用可能性



■バスに求める利便さ

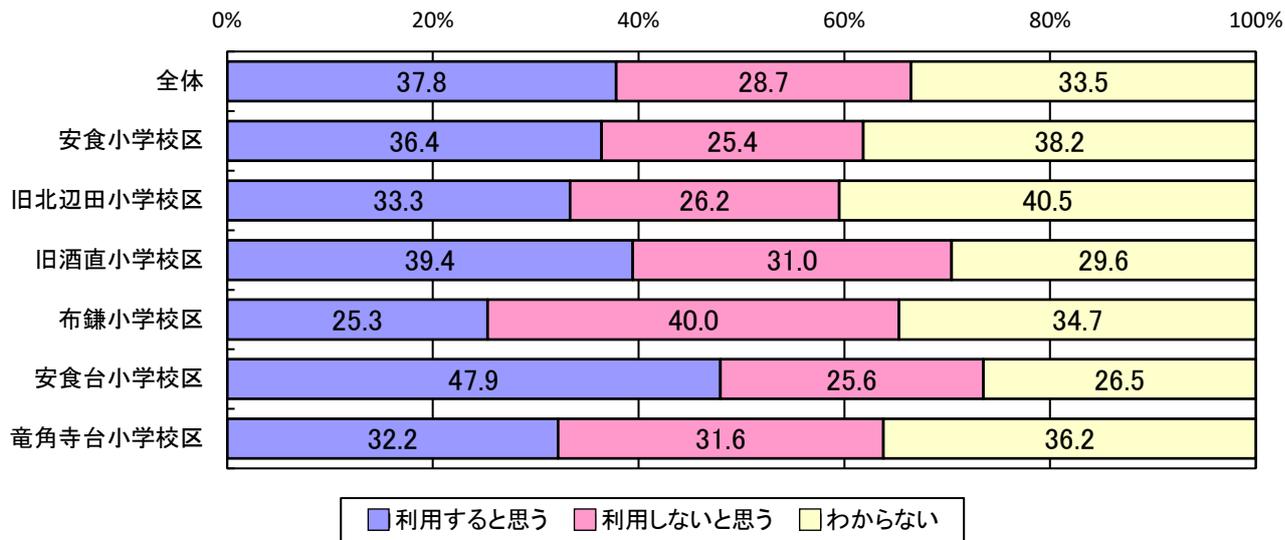


新規バス路線の利用意向

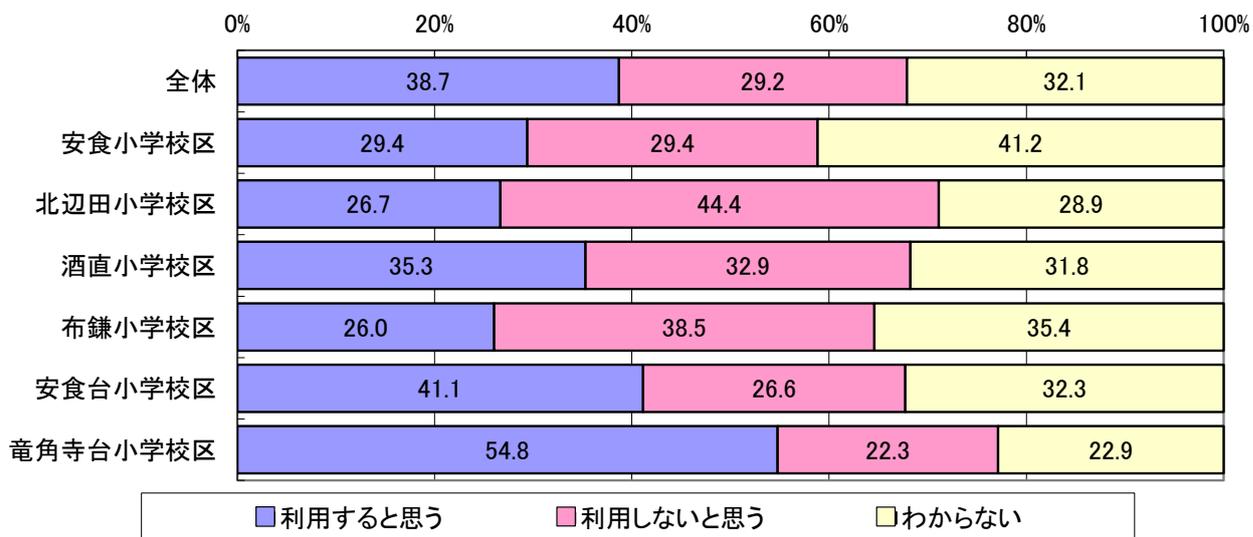
- 成田スカイアクセスの鉄道駅へのアクセスバスの利用可能性について、「利用すると思う」が、平成23年時より減少し、37.8%となっている。
- 成田スカイアクセスの鉄道へのアクセスバスの利用目的について、「通院」が最も多く73.8%、次いで「買物」で42.9%である。

■成田スカイアクセスの鉄道駅へのアクセスバスの利用可能性

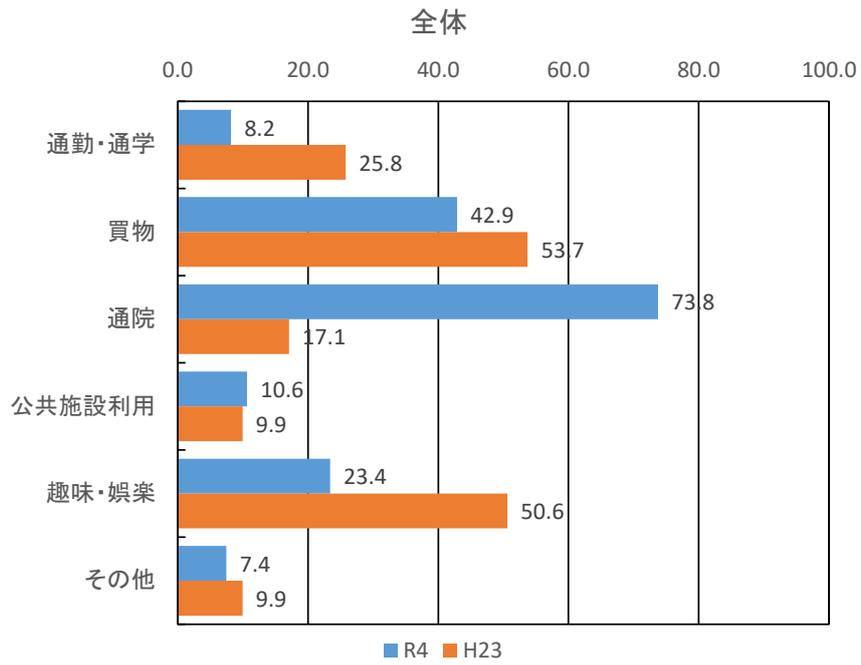
R4 年度



H23 年度



■成田スカイアクセスの鉄道駅へのアクセスバスの利用目的

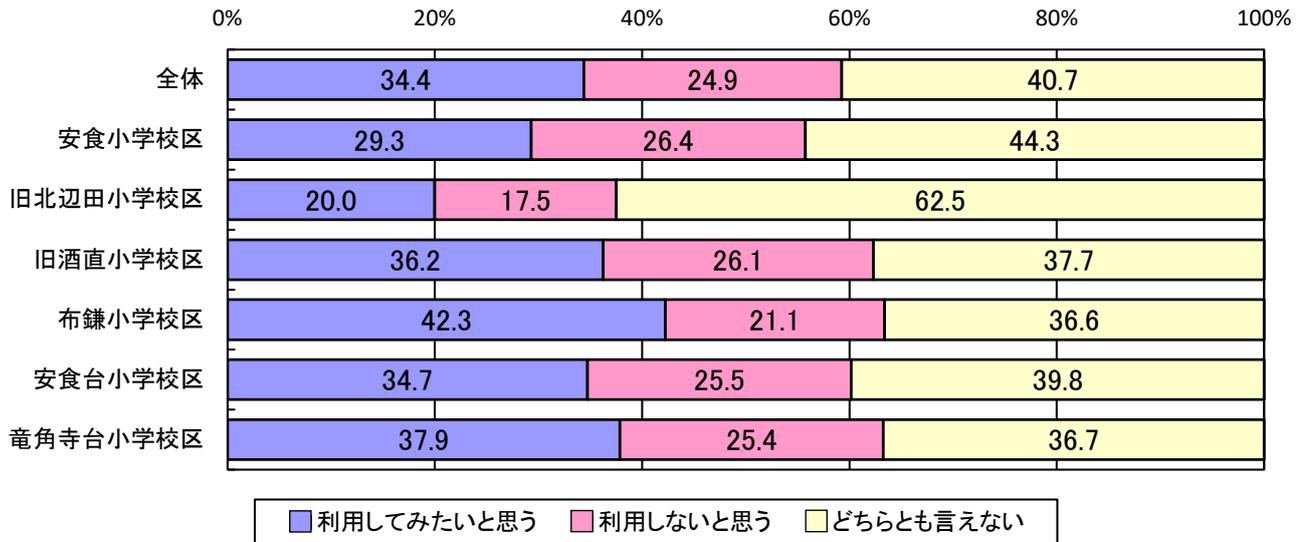


デマンド交通システムについて

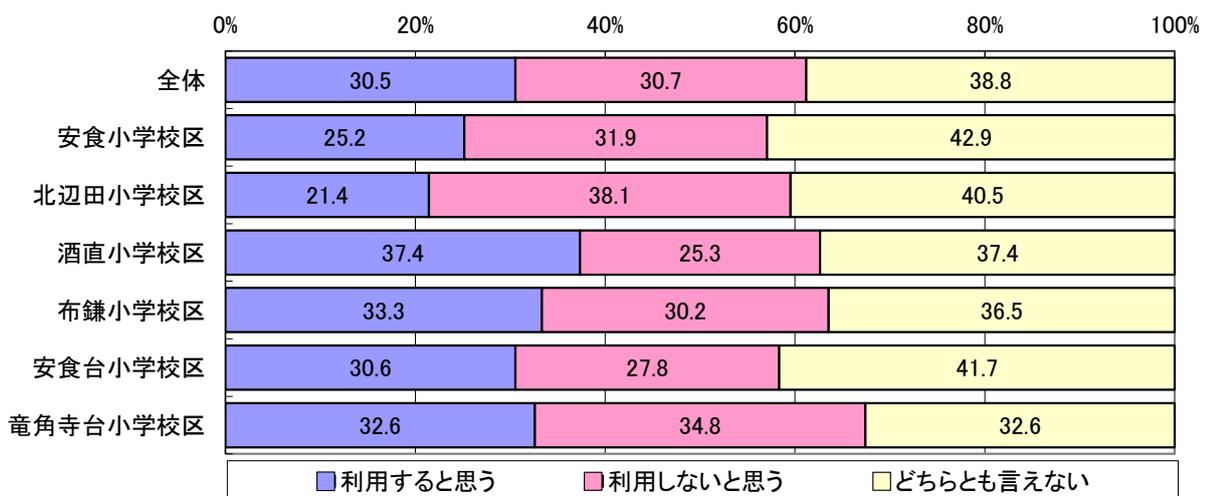
- ・デマンド交通システムの利用意向は、平成 23 年時より増加しており、34.4%の需要がある。
- ・デマンド交通システムを利用する目的は、買い物が多く、38.4%を占めている。

■デマンド交通システムの利用意向の比較

今回

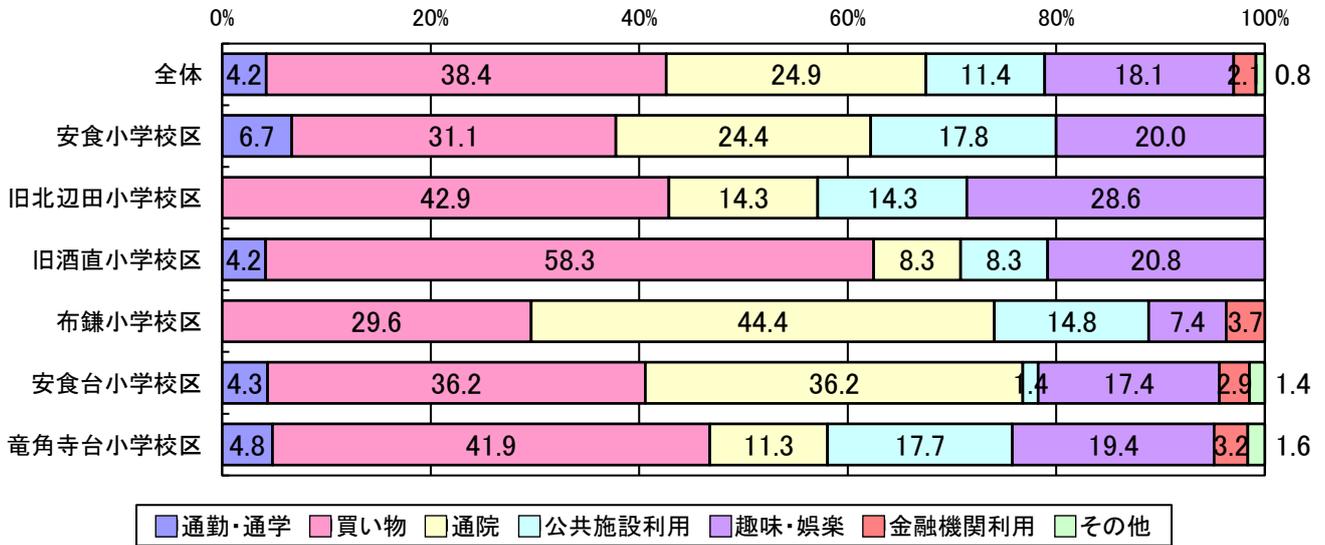


H23 年度

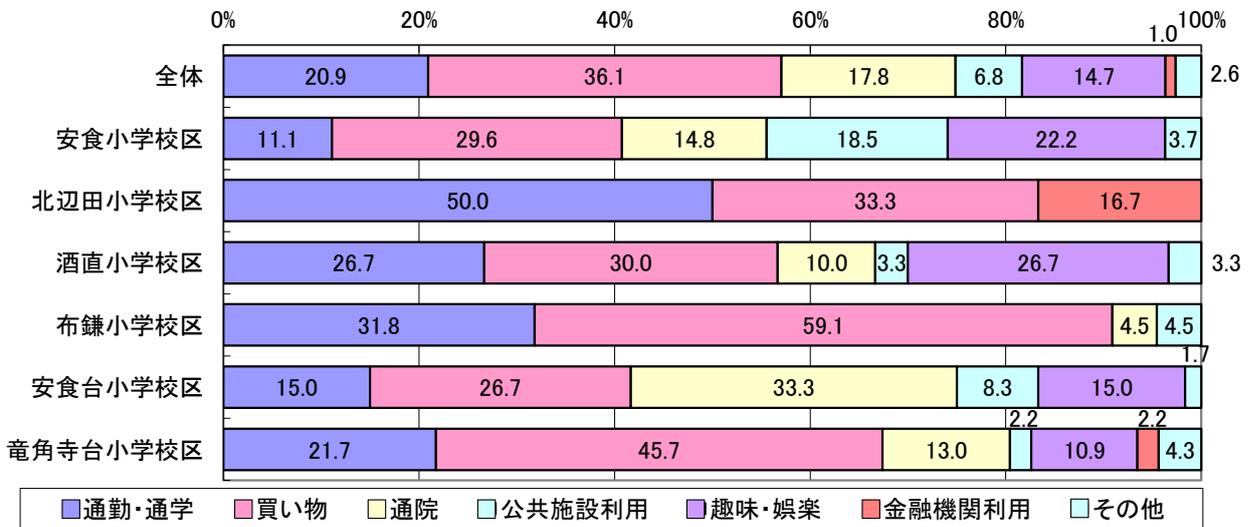


■ デマンド交通システムの利用目的

R4 年度



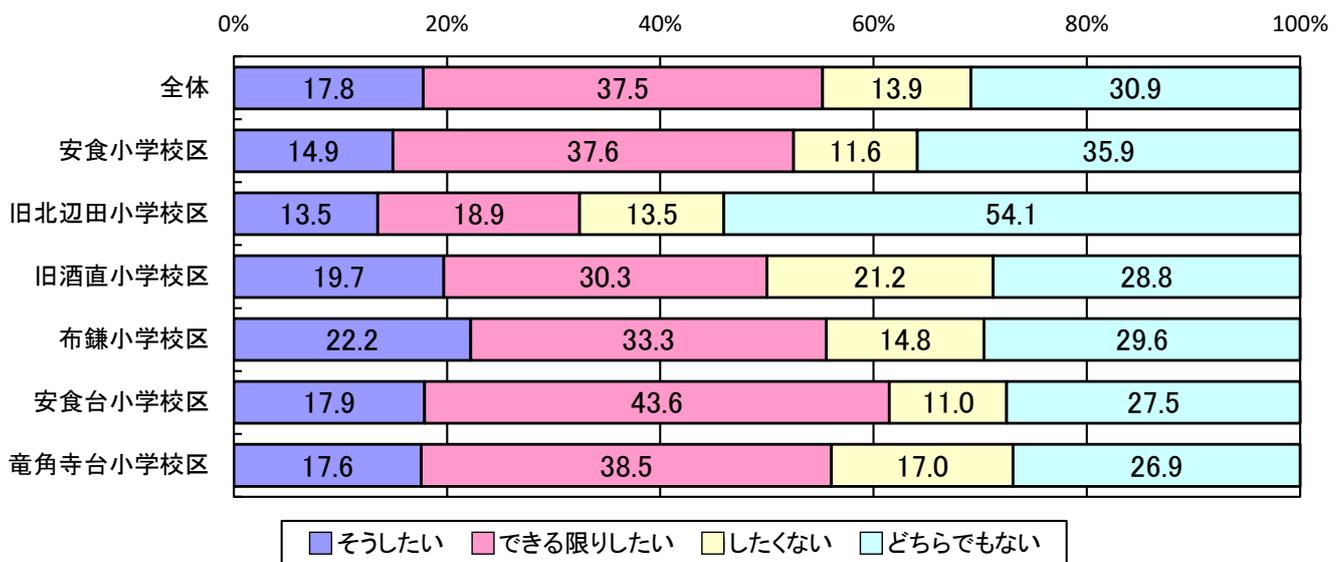
H23 年度



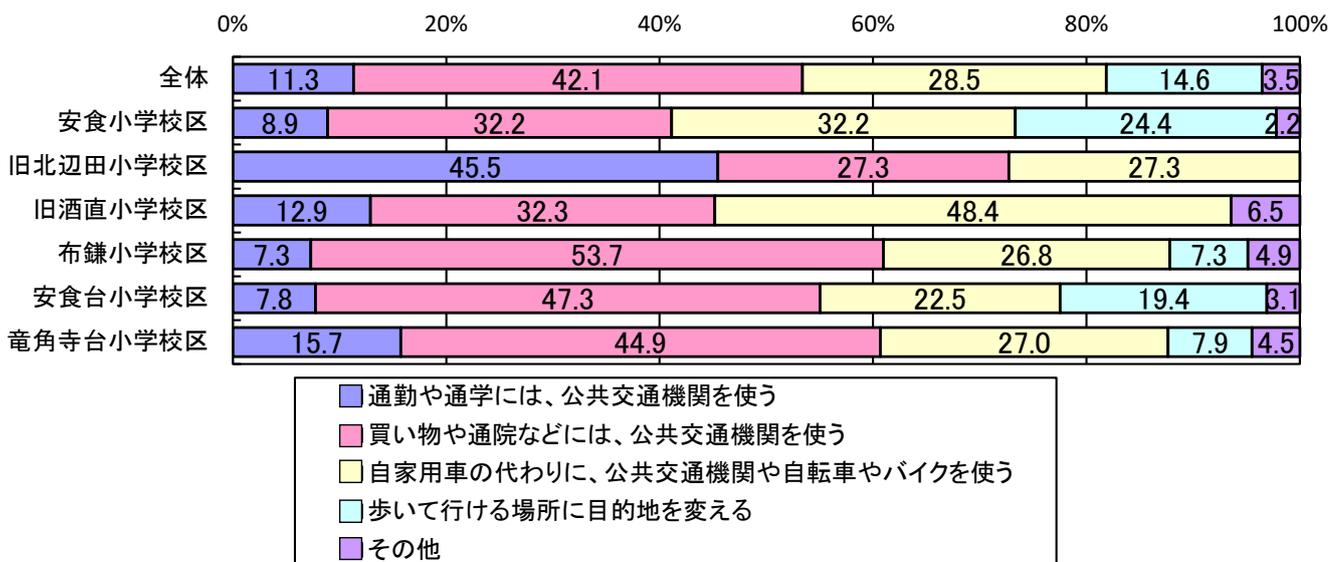
自家用車からの転換意向

- 自家用車の過度な利用に頼らない生活について、「そうしたい」、「できる限りしたい」が55.3%を占めている。
- 自家用車の過度な利用に頼らない生活にするために取り組めることについて、「買い物や通院などには、公共交通機関を使う」が最も多く42.1%であり、次いで「自家用車の代わりに、公共交通機関や自転車やバイクを使う」で28.5%となっている。旧北辺田小学校区は「通勤や通学には、公共交通機関を使う」の割合が45.5%と他の地区と比べ高い。

■自家用車の過度な利用に頼らない生活について



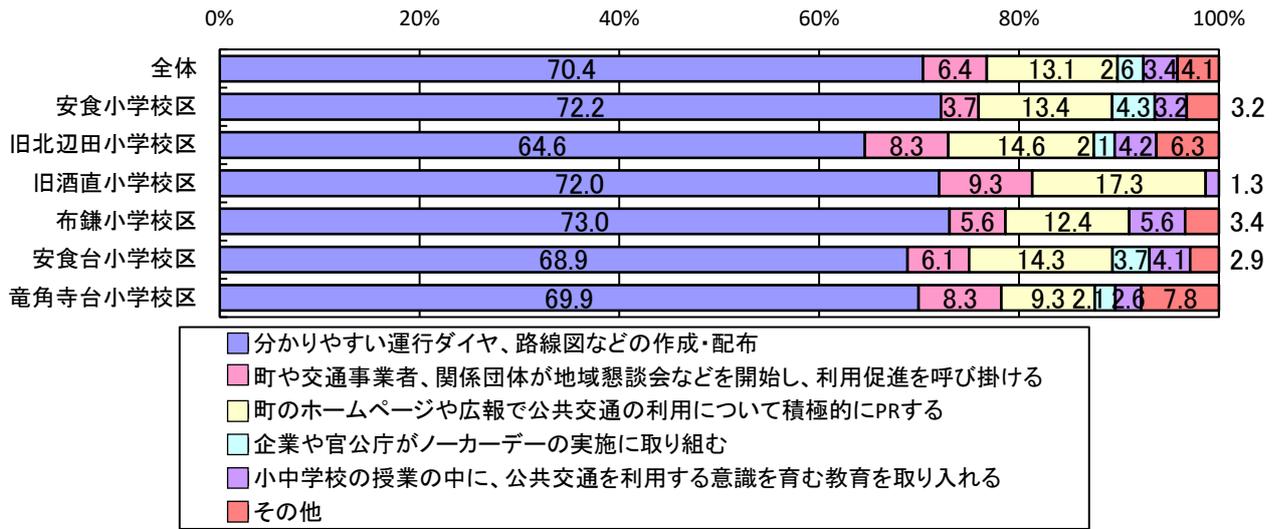
■自家用車の過度な利用に頼らない生活にするために取り組めること



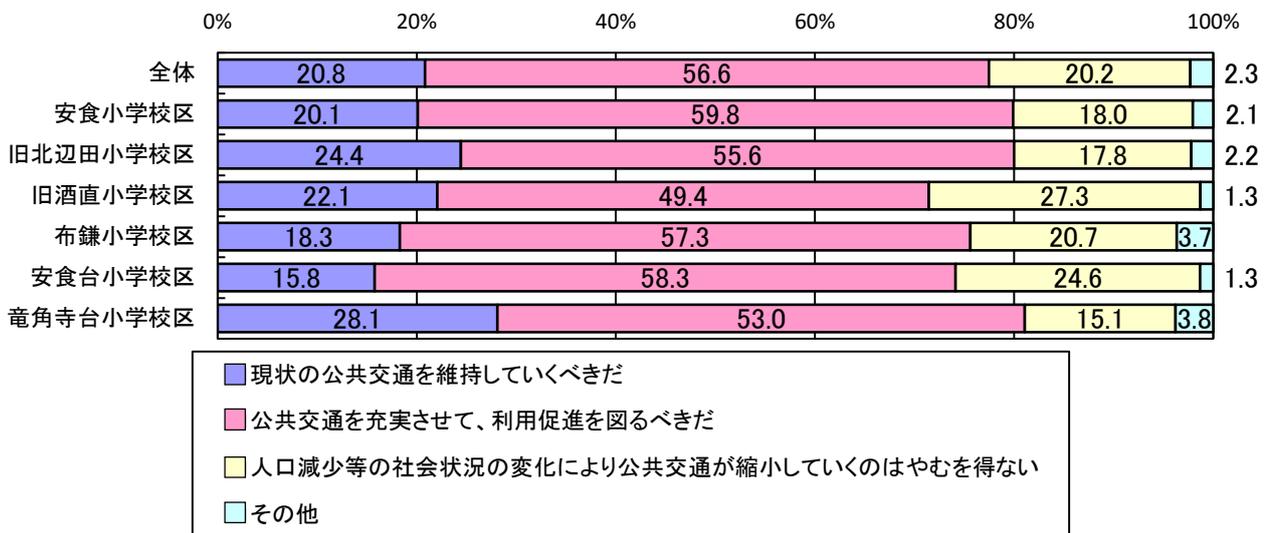
公共交通のこれから

- 公共交通利用促進のための取組では、「分かりやすい運行ダイヤ、路線図などの作成・配布」が70.4%で最も多い。
- 公共交通のあり方では、現状の公共交通の維持や公共交通を充実させて、利用促進を図るべきという割合が77.4%を占めている。
- 公共交通の維持充実方法について、現状の負担の中で維持・充実を図るべきという割合が46.4%を占めている。

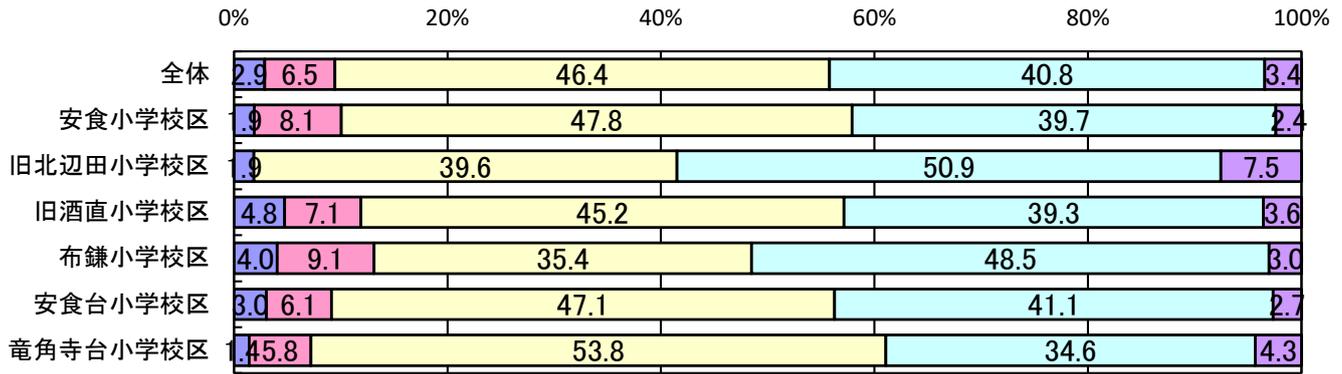
■公共交通利用促進への取組



■公共交通のあり方



■公共交通の維持・充実方法



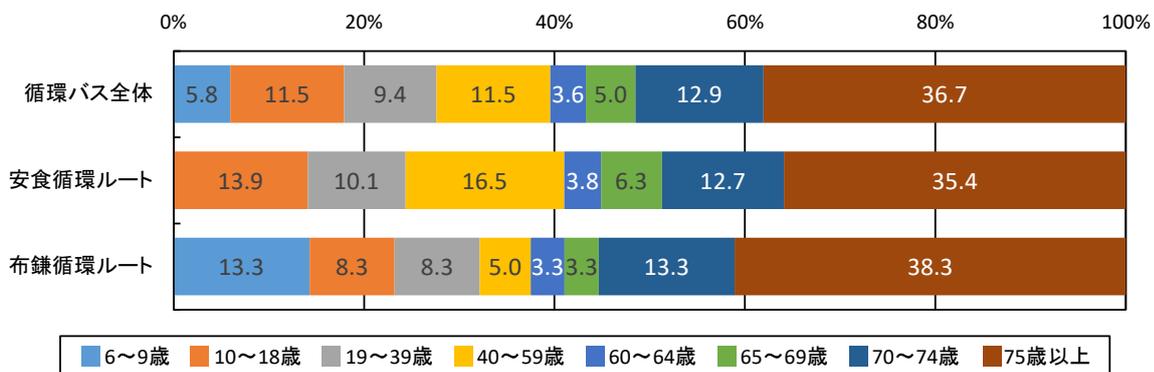
- 本人または家族が運転できるので、公共交通は必要ないと考える
- 沿線の人口の推移や利用状況により、路線の廃止や運行本数の減便を行い、財政負担を減らしていくべき
- 現状と同程度の財政負担の中で、運行の効率化とやれることに取り組み、可能な限り公共交通の維持に努めるべき
- 自家用車を運転できない高齢者等が増えるので、利用者負担や財政負担が増加しても、現状の公共交通サービス水準を拡充させていくべき
- その他

4-2 循環バスアンケート結果

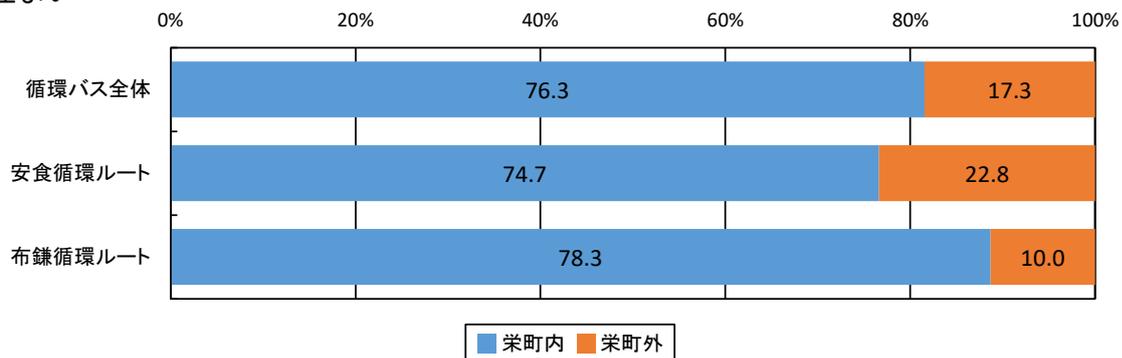
調査方法	調査対象者：循環バス（安食循環ルート、布鎌循環ルート）の利用者 調査方法：調査員がバスに乗り込み、ヒアリング調査 調査期間：令和4年11月22日（火）
回収状況	回答数：循環バス142票（安食循環ルート79票、布鎌循環ルート63票）
調査項目	○回答者の属性（性別、年齢、居住地） ○乗降バス停 ○バス利用について（利用目的、利用方法、利用頻度、運行サービスの満足度） ○バスについて改善してほしいサービス

回答者属性	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本調査では、年齢は58.2%が60歳以上であった。 ・住まいについて、「栄町内」が76.3%である。 ・安食循環ルートは「買い物」、布鎌循環ルートは「通院」利用が多い。

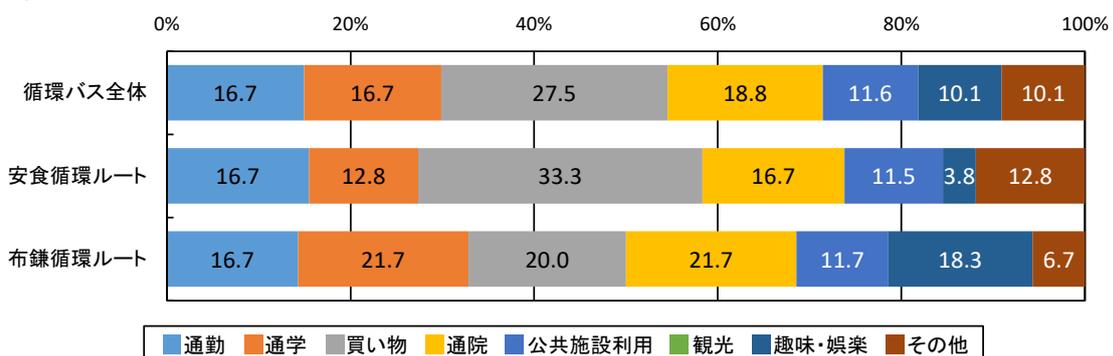
■年齢



■住まい



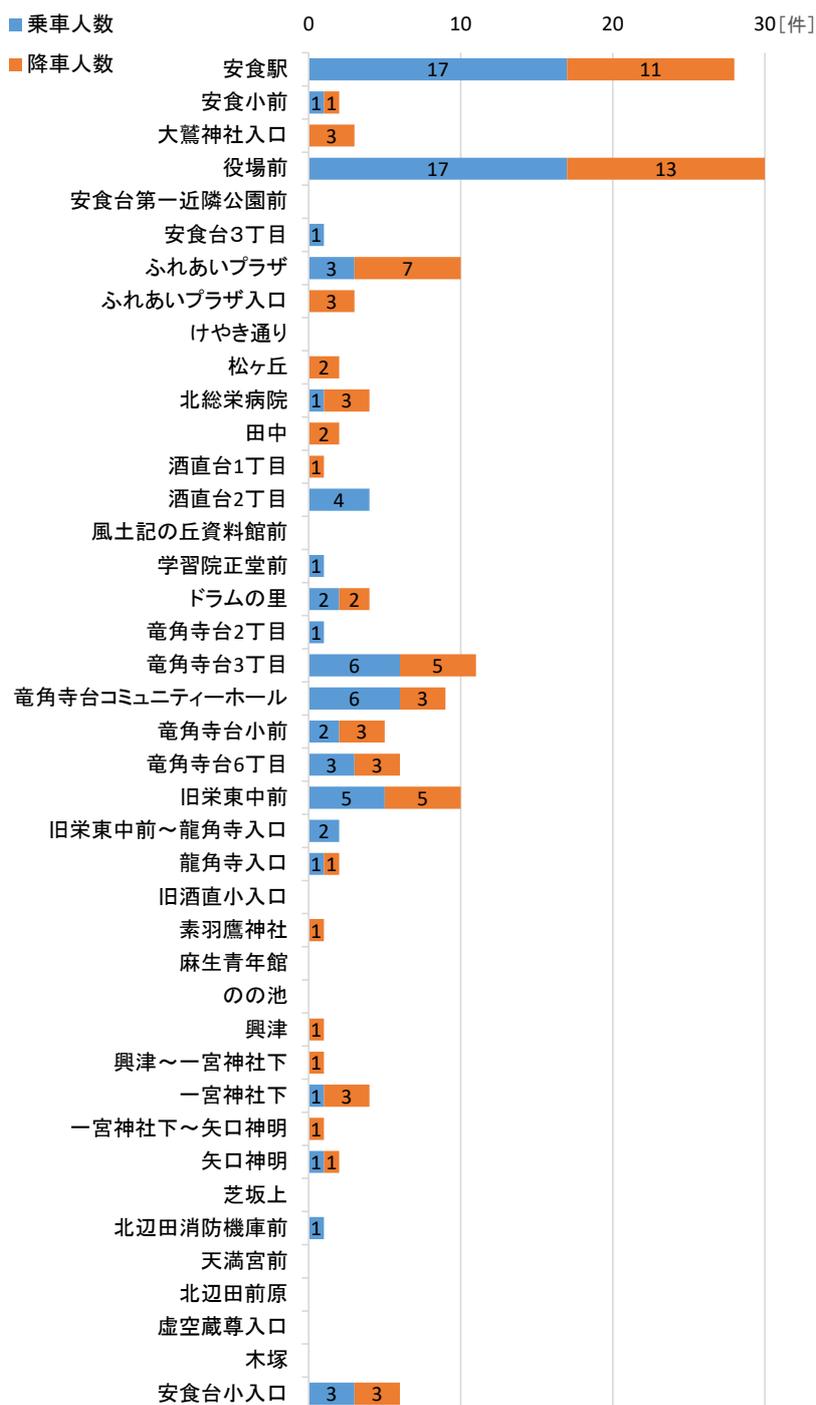
■利用目的（ルート別）



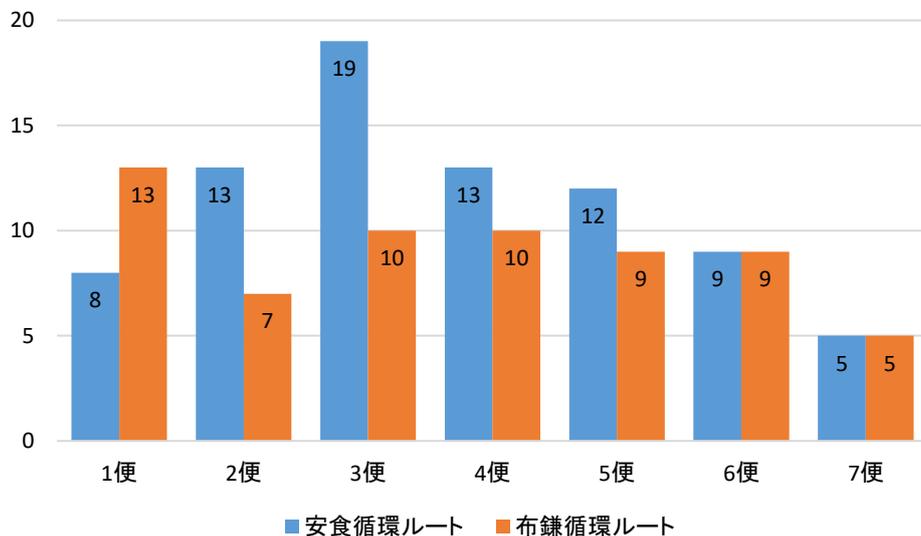
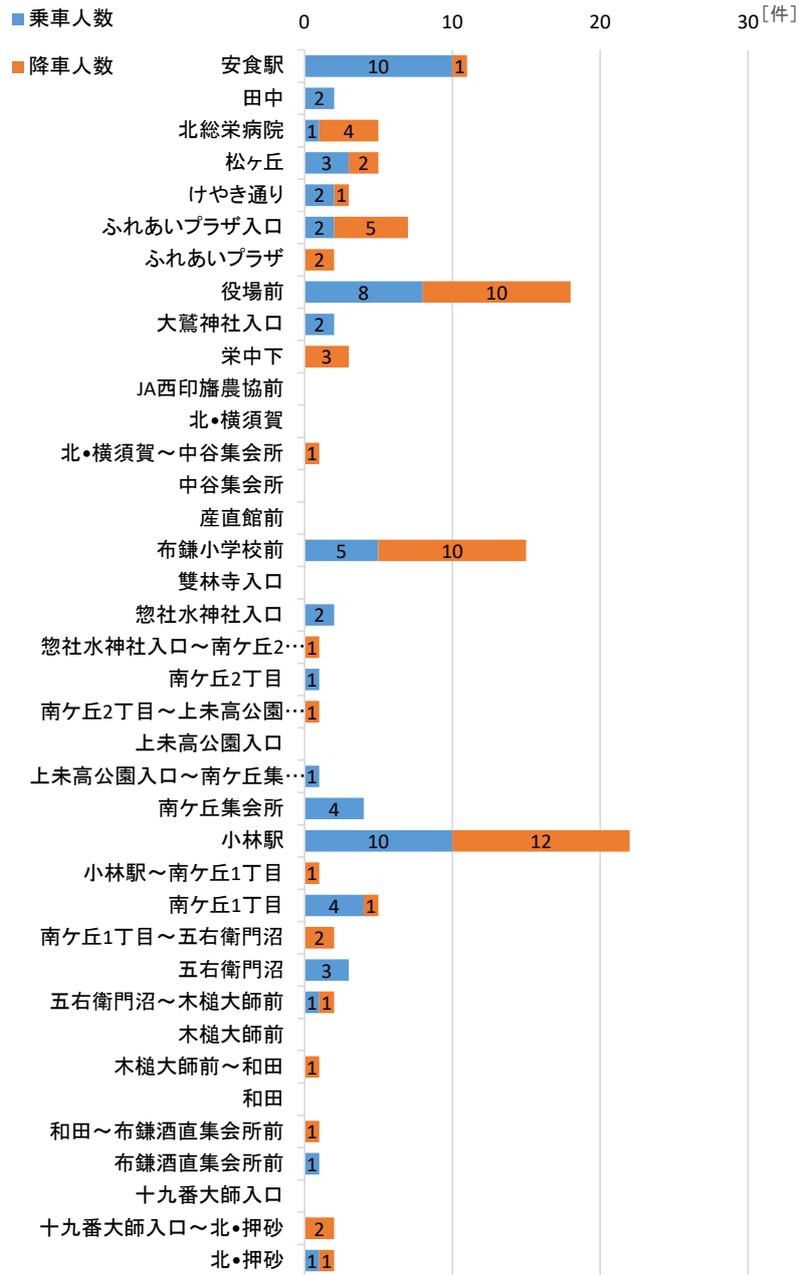
乗降バス停

- 安食循環ルートについて、最も乗降の多いバス停は、「役場前」であり 30 件であり、次いで、「安食駅」で 28 件である。
- 布鎌循環ルートについて、最も乗降の多いバス停は、「小林駅」であり 22 件であり、次いで「役場前」で 18 件である。
- 安食循環ルートは 3 便目が最も多く利用している。布鎌循環ルートは 1 便目が最も多く利用している。

■乗降バス停（安食循環ルート）



■乗降バス停（布鎌循環ルート）



【参考】 出典：栄町第5次総合計画 後期基本計画策定に係る町民意識調査

・「栄町第5次総合計画後期基本計画」策定にあたり実施した町民意識調査によれば、もっとも充実が期待されている施策（重要度が高く満足度が低い施策）は、「路線バス等の公共交通ネットワーク」「安食駅の利便性」で、第4次総合計画策定時に実施された前回の調査結果とほぼ同様の傾向となっています。

